



企業と大学生が協働し、持続可能な社会に向けた解決策を大研究!



あいちの「人づくり」プロジェクト!



かがやけ★

あいちサステイナ研究所



かがやけ★あいちサステイナ研究所とは

未来のあいちの担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるよう、愛知県が立ち上げたプロジェクトです。パートナー企業から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施します。解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRします。



課題提示

解決策提案



かがやけ★
あいちサステイナ研究所

[所 長]

愛知県知事 大村秀章

[研 究 員]
40名の 大学生



活動を
広く発信



大学・イベント等での発表
SNSや研究所公式ブログ



2020年度パートナー企業 (五十音順)



あなたの真ん中へ。



課題 issue

凸版印刷のリソースを活用してサスティナブルな社会に貢献する「食品ロスの削減」施策を検討せよ

トッパンでは、賞味期限の延長や鮮度保持を実現した「透明バリアフィルム」の開発や、賞味期限の近い食品の割引販売を告知するアプリの提供など、様々な形で「食品ロス削減」に貢献しています。食品ロスの削減は、持続可能な社会を実現するための重要な環境課題であり、さらなる「食品ロス削減」のための施策を検討します。

解決策 solution

トッパンと一緒にサスティナぶる！ ～美味しい未来をつくらう～

課題解決の方向性 [考え方]

食品ロスが生まれる原因のひとつである「意識」、特に子どもの意識変化の可能性に着目した。オリジナルキャラクター“トッパンダ”が小学校に赴き、楽しく食品ロスを学び、家庭の食品ロス削減に取り組めるコンテンツを企画した。

コンセプト

食品ロス啓発キャラクター“トッパンダ”を開発し、小学生をターゲットに食品ロスに対する意識改革を狙う。キャラクターを用いることで柔らかく苦になりづらい意識改革を施す。

①トッパンダと学ぶ

トッパンダが全国の小学校に出張、またはオンラインで食品ロスについての授業を実施する。紙芝居や映像教材、IoT 技術を用いて遠隔で生産現場の体験を行う。様々な教材を使うことで、「食品がうまれてから捨てられるまで」を食べ物の視点から楽しく学ぶことができる。

※IoT(Internet of Abilities): ネットワークを介して、人間はテクノロジーとサイボーグのように融合し、人間の意思や能力を拡張する未来社会基盤

②ポスター制作と啓発

小学生たちには、授業を通して食品ロスに関するミニポスターを制作してもらい、凸版印刷が編集と印刷をする。完成したポスターは、小学校近隣のスーパーや商業施設に展示し、近隣住民にも食品ロスについての考えを波及させる効果が期待できる。また、凸版印刷が提供する国内最大級のデジタルチラシ Shufool に掲載し、より多くの人にも意識の啓発を図ることができる。

トッパンダと学ぶ

オリジナルポスター作り

店頭、Shufool!での掲示、啓発

★みんなで食品ロスを意識する



▲施策に登場するトッパンダ

③学習後の取組

また、トッパンダからのプレゼントとして『トッパンダ特製食品ロス削減ブック』を贈る。授業の内容と日常でちょっとずつ食品ロスを減らすことができるテクニック集になっていて、当日のうちに家庭内で振り返りができ、家族で食品ロスに取組める。

持続可能な社会へのポイント

- 子どもたちが食品がどのようにして食卓まで届くかなどを知ることで、食べ物に対して今まで以上に感謝の気持ちを持てるようになる。
- 食品ロスについて楽しく学ぶだけでなく、子どもたちがポスターを通じて多くの人へ伝えることで、様々な世代の意識改革が期待できる。
- トッパンダが架け橋となって食品ロスを伝えることで、学校給食や日本全体の食品ロス削減へつながる。



研究員 メッセージ message

食品ロスは誰にでも関係のある問題であることから、まずは「自分ごと」として問題を捉えることが必要だと考えました。解決策の中で凸版印刷のリソースを通じて、楽しく食品ロス削減へ向き合うことの大切さを伝えたいです。そして「食品ロス削減」を当たり前を考える未来になることを願っています。



チーム・TOPPAN

愛知大学 3年 伊藤 晴香 愛知淑徳大学 1年 本田 早伽
椋山女学園大学 3年 菊地 朝美 名古屋学芸大学 3年 水野 祐利

ファシリテーター

アルト・ファシリテート 代表 葛原 祐季

課題
issue

ららぽーと名古屋みなとアクルスの SDGs発信地としての魅力・価値向上策を検討せよ

ららぽーと名古屋みなとアクルスでは、先進のエネルギーシステムや AI 空調の導入、公共交通機関の利用促進、ライフスタイル発信教室の開催など、様々な SDGs 達成に向けた取組を行っています。これらの取組と合わせて SDGs マインドをご来場いただくお客様に効果的に発信し、SDGs 発信地としての魅力・価値を高める手法を検討します。

解決策
solution

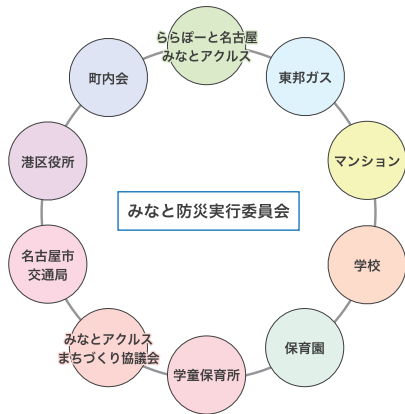
らら防災 - 愛∞

課題解決の方向性 [考え方]

「防災」を大事にしているららぽーと名古屋みなとアクルスにて、地域を巻き込んで防災教育を発信する。そして、ららぽーと名古屋みなとアクルスを地域防災の発信地として位置付ける。

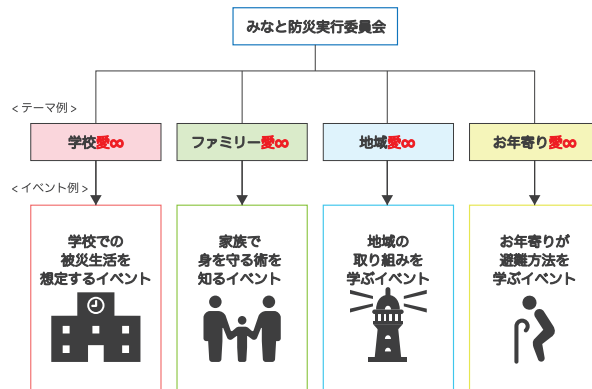
① みなと防災実行委員会の新設

ららぽーと名古屋みなとアクルス、港区役所、町内会、東邦ガスなど地域の団体が所属する防災の実行委員会を設立する。多くの団体の協働により、地域を巻きこんだ活動が可能となる。



② 「〇〇愛∞」を合言葉に防災イベントを展開

みなと防災実行委員会を中心に「〇〇愛∞」を合言葉に地域を巻き込んだ防災イベントを開催する。様々なターゲットに向けたイベントの開催を通じて地域内での自助・共助・公助を促進する。



持続可能な
社会への
ポイント

- 密な住民同士のつながりを創出し、安心して住み続けられる地域づくりに貢献する。
- 地域の自助・共助・公助を促進することで、災害からの回復力が高い安全な都市形成に貢献する。



研究員
メッセージ
message

ららぽーと名古屋みなとアクルスについてより知ることができました。更に根拠を考へながら企画を立案することの難しさと重要性を体感しました。また、学年学部が違う仲間と研究活動を行う中で自分とは異なる考えや視点と触れることができ、企画を考えていく上でいい刺激になりました。

チーム・ららぽーと

愛知淑徳大学 1年 浅香 希実 椋山女学園大学 3年 河合 璃子
愛知大学 4年 横井 佑宇 名古屋工業大学 大学院 1年 保崎 慎一郎

ファシリテーター

認定 NPO 法人中部リサイクル運動市民の会 副代表理事・事務局長 和喜田 恵介



課題 issue

持続可能な自然共生社会の実現に向けた 取組を検討せよ

東し東海工場は、2021年に工場操業50周年を迎え、記念事業としてビオトープの造成をはじめとした自然共生にかかる活動を計画しています。地域生態系の保全や企業緑地の利活用などについて、研究生の皆さんからの自由闊達なアイデアをいただきながら、持続可能な自然共生社会の実現に向けた取組を進めます。

解決策 solution

工場地帯の生き物にビオトープによる 快適な暮らしをみんなで！

課題解決の方向性 [考え方]

2021年に東し東海工場操業50周年の記念事業としてビオトープを造成する。そこで、多くの人に知ってもらう為、象徴となる生き物の誘引や、利活用方法として体験型プログラムを検討した。

東し東海工場の新しい価値を生み出す

「ビオトープを作ること、生物多様性を生み出し
生き物の住みやすい環境を整える」

「生き物のつながり」が見える東し東海工場ビオトープを提案

- ・全国に生息しているヤマガラを誘引
- ・ヤマガラのエサとなるエゴノキを植樹
- ・野菜を植えて、花を咲かせて見て楽しむ
- ・野菜は昆虫の誘引にもつながる
- ・石を置き、生き物の住処をつくる
- ・世界と東しとの関わりについて理解を深める



ビオトープ完成後

「自然に触れてもらうフィールドを提供し、
東しのビオトープを認知してもらう」

大人子どもどちらも自然に触れることができる体験型の環境学習プログラムを提案

大人向けプログラム

～ビオトープ健康診断～

ビオトープを維持、継続的に管理していくために、生息生育している昆虫や鳥、植物などの生物や石の調査を、「命をつなぐプロジェクト」の学生の協力のもと実地する



子ども向けプログラム

～花をスケッチして野菜を想像しよう～

近隣の小学校の生徒を対象として、ビオトープで花を観察してスケッチし、何の野菜の花かを予想する

→子どもたちがスケッチした絵を東しが保管し、10年後手元に届く仕組みにし、環境活動へ興味をもってもらうきっかけとする

この花は何の野菜でしょう？
答えは右下に！



くニノぞ：まろ

持続可能な 社会への ポイント

- 工場緑地を質の高い緑地（ビオトープ）に変えることで、生物多様性を確保することができる。
- ビオトープを用いた環境学習プログラムを実践することで、自然に触れる機会を増やし生き物への関心を高め、自然共生社会の実現につなげることができる。



研究員 メッセージ message

企業訪問1日目、この緑地をビオトープに作り変えると聞いたときは、完成のイメージが湧きませんでした。私たちの提案により、素晴らしいビオトープに変化させることができると思い、やりがいを感じました。長く残るビオトープを沢山の方に見に来ていただき、東しが取り組んでいる環境活動を知ってほしいです。



チーム・東し

中部大学 3年 野田 和希 名古屋経済大学 3年 江間 俊太郎
名古屋経済大学 4年 大倉 真千子 人間環境大学 2年 岡田 美夢

ファシリテーター

ビオトープ・ネットワーク中部 会長 長谷川 明子

課題 issue

「地球に優しい」メニコンの環境ビジネスを提案せよ

メニコンでは、環境への取組を「環境宣言」として掲げ、地球の未来を見据えて「人にも動物にも環境にも優しい地球企業でありたい」と願い活動をしています。その1つとして、コンタクトレンズケア用品の研究・開発で培った技術を活用した環境バイオ事業を展開しています。持続可能な社会の実現へ向け、地球や社会に優しく、メニコンらしい環境ビジネスを検討します。

解決策 solution

『Eye愛傘』ずっと輝く瞳に

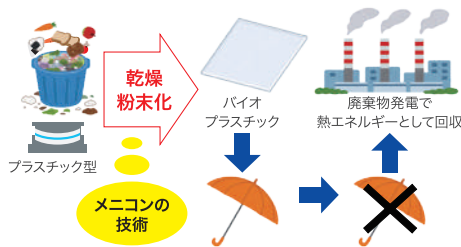
課題解決の方向性【考え方】

コンタクトレンズの形成の過程で、大量のプラスチック型が使用される。その利活用と食品ロスにメニコン独自の技術を活用し、目にも環境にも優しいメニコンオリジナルの日傘の生産を提案した。

バイオマスプラスチックで作る“地球&目に優しい日傘”

メニコンの願いと「ずっと輝く瞳に。」というキャッチコピーを体現すべく、私たちは『Eye愛傘』という日傘を提案する。

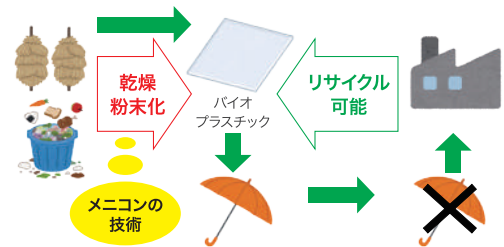
～日傘の人生～



【廃棄プラスチック×食品ロス⇒日傘】

メニコン独自の「乾燥・粉末化」の技術を食品ロスに活用。それを廃棄プラスチック型と配合することで、バイオマスプラスチックを生成。私たちは、それを使用した“地球にも目にも優しい日傘”の生産を提案する。

～理想的サイクルの提唱～



【(株)敷島製パン様との協力が実現】

食品ロスの提供の面で、敷島製パン様にご協力を仰ぎ、実際に廃棄予定であった食パンを頂いた。これにより、バイオマスプラスチックの生成がより明確に実現可能となった。

持続可能な社会へのポイント

- メニコンのEye愛傘で、紫外線が目にも悪影響であることをより発信できる。
- ジェンダーレスな日傘として、日傘における性別的な不平等の解消に繋がる。
- メニコンで使用した廃棄プラスチックを目に見える形で再利用する。



研究員 メッセージ message

メニコンは、コンタクトレンズの開発で培った技術を活かして環境バイオ事業も行っています。私たちは、メニコンが地球&目に優しい日傘を生産することで、メニコンの環境事業を広めるといビジネスを提案しました。この『Eye愛傘』を多くの人に知ってもらい、メニコンをもっと愛してもらいたいです。



チーム・メニコン

愛知県立大学 3年 竹澤 楓 愛知淑徳大学 1年 数馬 鈴菜
星城大学 3年 西本 匡宏 南山大学 3年 竹内 裕次郎

ファシリテーター

愛知淑徳大学 秋田有加里

課題
issue

2030年を笑顔であふれる世界に！ サスティナブルな地元の魅力を発信せよ

吉本興業は、国際社会の一員として、SDGs に賛同し、「笑顔」につなげる活動を通じて、より良い国際社会の実現に貢献・応援しています。“笑い”という最強で最大の強みを生かし、SDGs を知るから実際の行動へと促すことを推進しています。そこで、地元の魅力に着眼しながら SDGs をより多くの人々に普及啓発するための手法を検討します。

解決策
solution

発信！発進！『SDGs ハッシンカー』 ～移動します芸人と広げる愛知の笑顔～



課題解決の方向性 [考え方]

吉本興業の強みである“笑い”と“発信力”。それらを美味しいものを食べたときにあふれる笑顔と掛け合わせ、地元の魅力と SDGs 両方の普及啓発、そして笑顔の輪を広げていく方法を検討した。

笑顔！「笑い」から「幸せの連鎖」へ

美味しいものを食べたときに起こる「笑顔」、人とコミュニケーションをとって起こる「笑い」、様々な「笑い」を掛け合わせ『SDGs ハッシンカー』が発進し、地元の魅力を発信していく。

〈SDGs ハッシンカー〉

“移動します芸人”と生産者が乗り込む「ハッシンカー」。愛知県の農村部の地元食材を無駄なく使用し、都市部に家庭でも作れる簡単料理の提供を通して魅力を伝える。YouTube で動画配信を行い、「笑い」や楽しさとともに、都市部⇄農村部をつなぎ、誰もが生活の中でSDGs活動に取り組めるように発信！発進！



移動します芸人が都市部と農村部をつなぎ、愛知県内で地域循環共生圏の創造推進を図る。

【SDGs ハッシンカーの見どころ！】

- ①地元食材を通して地域の魅力を再発見
- ②食べられる食器でごみゼロに
- ③家庭でも作れる簡単レシピで SDGs の実践へ
- ④移動します芸人の創設で新たな仕事創出へ
- ⑤看板車で SDGs の認知度向上

運営の工程と販売、消費の過程で、環境に配慮し、SDGs への実践手段を『見える化』する。

〈移動します芸人とは？〉

ハッシンカーに乗り込み移動しながら、その先々で自然と“笑い”が湧き起こるコミュニティを作り、『幸せの連鎖』を広げていく芸人たち。

持続可能な社会へのポイント

- 経済面：**農村部の地元食材の魅力を都市部へ料理販売を通して広め、地域循環共生圏の創造を推進する。
- 社会面：**愛知の新たなブランドイメージや地元愛の向上から持続可能な街づくりの基盤の構築を目指す。
- 環境面：**食材を無駄なく使用することで食品ロス削減やごみゼロに繋げる。SDGs そのものを知ってもらう機会の獲得と行動実践を見せることで理解を広めていく。



研究員
メッセージ
message

“発信力”そして最強で最大の“笑い”という二つの強みを最大限に活かして SDGs を普及啓発し、さらに誰でも日常生活の中で楽しく取り組める企画提案をしました。この『SDGs ハッシンカー』を通じて農村部と都市部で協力し、新たなコミュニティの構築を図り、笑顔あふれるサスティナブルな地元の魅力発信を目指します。



チーム・よしもと東海

愛知教育大学 4年 小野 航 椋山女学園大学 3年 佐々木 菜生
中部大学 4年 川口 賢吾 名古屋工業大学 2年 杉本 祐也

ファシリテーター

フィットラボ 代表 松本 イズミ

課題
issue

サラの環境にやさしいエネルギーをPRする 体験型プログラムを検討せよ

110周年を迎えたサラグループでは、天然ガスをはじめ、バイオマス発電やバイオディーゼルといったクリーンなエネルギーを通じて環境に配慮した事業活動を展開しています。新しい生活スタイルを提案するコミュニティスペースである「サラプラザ」を活用して、持続可能な社会を実現するための活動を多くの人にわかりやすく理解してもらうプログラムを検討します。

解決策
solution

家を育てて暮らし・エネルギーについて学ぼう!

課題解決の方向性 [考え方]

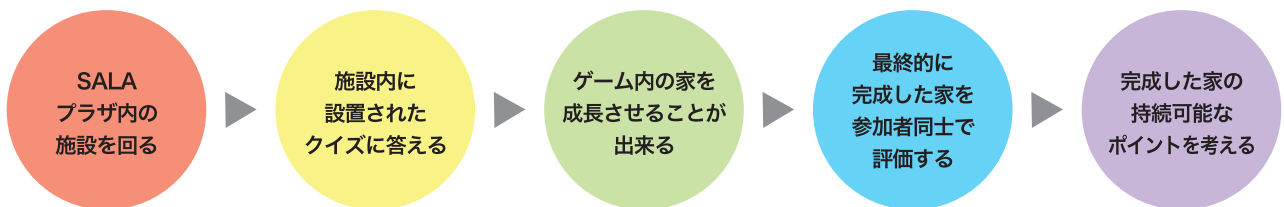
SALAの商材やクリーンなエネルギーを活用して環境に優しい家がどういふものかを楽しく参加者に考えてもらえるアプリ制作を企画した。

ゲームを通して”理想の暮らしと環境”を考える

SALAのショールーム、地域のコミュニティスペースとして展開されている、サラプラザにおいて、未来の担い手である子どもたちを対象にしたゲームを行います。ゲームは、サラプラザ内に設置されたクイズに答え、アプリ内にある家に様々なアイテムやサービスを取り入れて理想の家を作り、完成した家进行评估するものです。そして、このゲームを通じて暮らしと環境の関係について考えてもらいます。

提案する企画のゲームの進め方

タブレット端末を使用、
イベント・学校の課外活動として実施する想定



得られた知識を生かして今後のSDGs達成に貢献できる!!

持続可能な
社会への
ポイント

●子どもたちに家という身近な題材をもとに、環境や暮らし、エネルギーについて学んでもらいます。環境負荷の少ない家づくり、住宅設備の選択を通じて、地球温暖化対策、SDGsへ貢献してくれることを期待します。



研究員
メッセージ
message

私たちは今回の活動を通して、暮らしの中のモノや生活の仕方にも環境に配慮できるポイントが非常に沢山あるということを学びました。今回の提案が、環境と暮らしやすさについて考えるきっかけとなり、環境への配慮と快適な暮らしとの両立を意識できる人が多くなることを期待しています。



チーム・SALA

愛知教育大学 3年 松尾 朋晟 愛知工業大学 3年 森上 龍太郎
中部大学 4年 石上 智裕 東海学園大学 3年 金本 陸斗

ファシリテーター

一般社団法人奏林舎 唐澤 晋平

課題
issue

日本ガイシと持続可能な未来を考える、子ども向け教育プログラムを検討せよ

「100年前から、SDGs 発想。」日本ガイシは、1919年の会社創立より一貫して暮らしや産業の発展を支え続けるとともに、地球環境の保全に貢献する製品を提供してきました（環境貢献製品の総売上高比：約6割）。子どもを対象とした環境教育にも長年取り組んでいます。そこで、未来の担い手である子どもたちの環境への関心を高めるために、新たな教育コンテンツを検討します。

解決策
solution

幸せを呼ぶパートナーシップ！ もっと“幸せ”な未来にするには？

課題解決の方向性 [考え方]

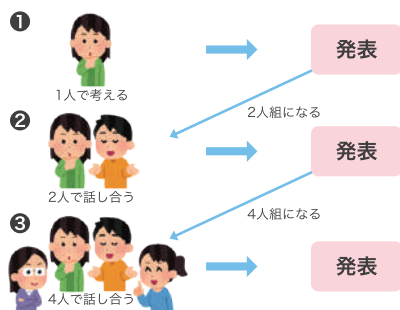
「社会に新しい価値を そして、幸せを」という日本ガイシの理念。これを基に、環境問題をポジティブに捉え、未来を積極的に変えていこうと思うきっかけを作り、解決策を自由な発想で創造する授業プログラムを検討した。

もっと“幸せ”な未来にしたいくなる授業

【対象】小学5・6年生 【実施場所】主に学校 【時間】90分

<Step1>環境サバイバルゲーム～未来は君たちの手に～

タイムスリップした未来の様々な環境問題に対して、アイテムカードと仲間カードを使いこなし、ユーモアある解決案を考え、意見を出し合う対話型ゲーム

◆プログラムの流れ


ポイント 人数が増えていくと、たくさんの異なる意見がぶつかり、話し合いの難しさや、話し合いには相手を尊重すること・思いやる必要があると感じることができる。

<Step2>現状と歴史を知る

- ①地球の現状を写真等で示し、ゲームの問題が現実の問題だと理解する。
- ②日本ガイシが考える“幸せ”と、環境問題への取組の歴史を紹介する。

ポイント 現実を抱えている問題が、新しい技術とアイデアで解決できるんだという**希望**を持つことができる。

<Step3>アイデアを提出

“幸せな未来”にするための、自分たちなりのアイデアを話し合い、日本ガイシに提出する。

- ポイント** 【日本ガイシ】子どもたちの発想豊かなアイデアを、新たな技術開発のきっかけにすることができる。
- 【子どもたち】未来を変える力が自分たちにもあると実感してもらうことができる。

日本ガイシと子どもたちが楽しく
パートナーシップ


**持続可能な
社会への
ポイント**

- プログラムを通して環境問題をポジティブに意識することで自発的に取り組んでいけるようになる。
- SDGsの1～16番を解決する手段である17番（パートナーシップ）をプログラムの基礎に据えることで、日本ガイシと一緒に自分たちなりの幸せな未来を考え、行動することが持続可能な社会へと繋げることができる。

17 パートナリツプで
目標を達成しよう


**研究員
メッセージ
message**

この活動を通して仲間や日本ガイシの皆さんと意見を交わし、話し合う楽しさ・難しさを体感しました。その中で SDGs の 1～16 を繋いでいるのがパートナーシップであると私たち自身、実感したので、今回のプログラムを通して子どもたちにもそのことに気づいてほしいです。相手を思いやる気持ちが持続可能な社会への第一歩となることを願っています。

チーム・日本ガイシ

愛知学院大学 1年 三村 はな 愛知学院大学 2年 村枝 拓郎
愛知教育大学 3年 片桐 朱音 中部大学 2年 佐々木 大樹

ファシリテーター

NPO 法人アスクネット アドバイザー 白上 昌子



課題
issue

ささしまライブをSDGsで活性化！ 人にやさしい未来の街づくりを検討せよ

中京テレビは、これまで長年にわたり環境を考える番組を制作、放送をしてきました。そして、開局 50 周年を迎えた昨年には「絶滅動物」をテーマにした番組やイベントなどを通して、持続可能な地球について考えました。そこで、環境をテーマに、本社のある名古屋駅地区「ささしまライブ」の活性化に貢献できる持続可能な新しい取組を検討します。

解決策
solution

未知×道の先へ 交じり会うまちへようこそ！

課題解決の方向性 [考え方]

ささしまライブは多種多様な主体が連携し、国際歓迎・交流の拠点を目指す街である。個性と個性が出合う多様性の街で、人々と交流理解し合う事がささしまライブの人にやさしい未来の街づくりと SDGs の目標達成に繋がると考えた。

課題解決に向け、私達は、認知→思考→行動により訴求することが有効であると考えた。また、下記の取組をテレビや新しい動画・情報配信サービス(DX)で地域社会へ正確に確実に広く伝達することで、地域活性化と持続可能な社会構築に繋げる。



提案① 思いやり研究所

異性・妊婦・障がいのある方などの体験を通して他者を理解することを目的としている。例えば、男性が女性の格好をする事や、おもりのついたベルトを装着するなどの体験を通して、「未知」を認知することで相互理解と行動に繋げる。



提案② ユニバーサル食堂

食品ロスは社会課題となっており、食品ロスの削減に関する法律も制定された。食品ロスを削減すると共に、どんな立場の方にも利用してもらえるユニバーサルな食堂を提供し、食品ロス削減と多様な交流の両立を目的とする。



【地域社会とのパートナーシップ】

ささしまライブのまちづくりを担う組織である「ささしまライブまちづくり協議会」に向け私たちの考えをプレゼンし、提案推進のために協議会とパートナーシップを組み進めていきたい。



テレビの発信力とSNSの訴求力をリンクさせ、人にやさしい未来の街づくりを行っていく。

持続可能な
社会への
ポイント



- 今まで自分が経験したことのない生活の仕方を経験する。
→今まで以上に相手を尊重できる+多様性を尊重する持続可能な社会構築できる。
- 捨てられるはずだった食材が生まれ変わることができる場所ができる。
→食品ロスを減らす。
- 多様な主体との定期的な取組。
→ささしまライブ地区をSDGsで活性化+人にやさしい街づくり。



研究員
メッセージ
message

新型コロナウイルスが拡大し非対面式が広がっている中、私達は「会う」ことの大切さに目を向け中京テレビと街づくりを考え、世代や性別、人種を超え「交じり会う」取組を企画しました。私たちの提案が、皆の「知る」きっかけになり、「交じり会う」という行動促進と SDGs の目標達成に繋がると目指します。



チーム・中京テレビ

金城学院大学 1年 石垣 杏那 東海学園大学 3年 堀田 さくら
南山大学 3年 伊藤 萌夏 南山大学 3年 長谷川 夏都子

ファシリテーター

環境カウンセラー 土井 万寿美

課題
issue

持続可能な社会に貢献する 新たな通信コンテンツを検討せよ

中部テレコミュニケーションでは、独自の光ファイバーネットワークにより、中部地域の皆様に高品質な通信サービスを提供し、「ひがしやまどうがの森」の運営などを通じて、環境やいのちの大切さを発信しています。そこで、研究生の自由な発想で、地域環境や持続可能な社会に貢献する新たな通信コンテンツを検討します。

解決策
solution

持続可能な社会に向けて ～体験型通信コンテンツを通して「つながり」をつくる！～

課題解決の方向性 [考え方]

今年は新型コロナウイルスの流行により多くのイベントが延期・中止となるなど、自宅で過ごす日々が続いた。そこで、中部テレコミュニケーション (ctc) の通信技術を活用し「人と人のつながり」を実感できるサービスを検討した。

学べる つながる VR総合サイト



1 地域イベントを

コロナの影響により中止となってしまった地域イベントをVRで体験できるサービスを提供する。コロナ禍で行えなかったイベントをVRで体験することで地域の気づかなかった魅力を再発見することができる。



2 災害に備えた疑似体験を

実際に起こりうる場面をVRで再現し、どのような行動を取るべきかをクイズ形式で学べるサービス。VRで再現することでよりリアリティある体験ができ実際の災害時に落ち着いて判断し行動することができるようになる。



3 環境の危機を

現在、世界が直面している環境問題にかかわる内容を、VRで見せることにより、より自分たちの置かれている問題を直視することができ、環境問題への意識を強く持たせられると考えた。



そして、サイト内で映像を開始する前と後にVR内でコミュニケーションを取れる場を作ることで、体験者同士の距離を省くことができる新しい繋がり方になると考えます。
新たな学びが生まれる「つながり」を生み持続可能な社会に貢献する新たな通信コンテンツとなる。



持続可能な
社会への
ポイント



今日では新型コロナウイルスの影響もありSNS等を活用する機会が増えたが、それでは実際に会うのと比べ臨場感にかける。そこでよりリアリティーのあるVRを活用した。また、VRで体験して終わるのではなく、様々な人とコミュニケーションをとることで遠方の人達との「つながり」を作り、実体験や地域ごとの環境課題なども学ぶことができる。次世代通信コンテンツで「つながり」の重要性を再確認し、全員が環境意識を高めることで持続可能な社会に貢献できると考える。



研究員
メッセージ
message

私たちは企業訪問を重ねるうえで通信のメリットは、「距離」、「場所」を問わずに利用できることだと学びました。その上で通信の良さを活用しコロナ禍で薄れてきている「人と人とのつながり」を強められるようなサービスを考えました。持続可能な社会に繋がる新しい通信コンテンツにしていきたいです。

チーム・コミュファ光

愛知教育大学 3年 牧本 未来 愛知工業大学 3年 横道 稔治
愛知工業大学 3年 西寺 亜斗夢 東海学園大学 3年 小池 佳穂

ファシリテーター

Le-puro(レプロ)清水 君代



課題 issue

～Ready to Go!～

「地球を守る保険とサービス」に挑戦せよ

昨今、大型台風や洪水等の自然災害、新型コロナウイルス等により、『安心と安全』が脅かされ、多くの方が不安な中で生活を送っています。東京海上日動は、保険を通じて『安心と安全』を提供することを始め、危険の未然防止や被害を最小限にするため、様々な取組をしています。地球環境を守り、持続可能な社会の実現のための保険・サービスを検討します。

解決策 solution

ここから、わたしから、SDGs ～わたしの街の未来をつくる保険～

課題解決の方向性 [考え方]

日本中を笑顔あふれる自然あふれるやさしい街にしたい！東京海上日動の“保険”は、多様なステークホルダーとの関わりを活かして、SDGsの実現と、わたしの街の未来をつくります。SDGsへの共感度を高め、新たな行動を創り出します。



① SDGs 達成のための活動を企画！
学生団体が、東京海上日動の社員、代理店、お客様と自治体の連携による SDGs 達成のための、わたしの街の未来をつくりだす活動を企画する。



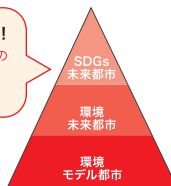
② SDGs 活動を実施！
東京海上日動のお客様や地域の人々、大学の仲間がわたしの街の未来をつくる活動に参加し、共感と参加の輪を広げる。



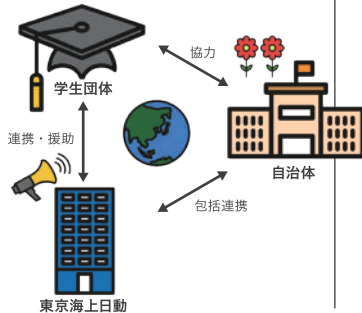
③ 活動内容を発信&シェア！
学生団体が SDGs 活動の様子を VLOG で世界中に拡散し、「わたしの街でもやってみよう」という共感と参加の輪を広げる。

東京海上日動は保険を販売するだけの会社ではない。地球の未来にかける保険「Green Gift」プロジェクトとして「マングローブ植林活動」や「Green Gift 地球元気プログラム」などの社会貢献活動、更に、保険契約の際の保険証券のペーパーレス化をはじめとして多くの環境に優しい取組を行っている。他、多様なステークホルダーと価値を共創する中で全国の自治体とも連携し、地方創生・SDGsの活動にも力を入れている。

地方創生 SDGs を応援！
2030 年までに全国のすべての自治体 (1741) の環境モデル都市選定を目指す。



※SDGs 未来都市とは、政府が進めている地方創生につながる SDGs の取組の先進モデル構築を目的に選定された自治体。
※内閣府地方創生事務局が選定する地方創生 SDGs「環境未来都市」構想より



- ① 東京海上日動と包括連携を結んでいる。
- ② SDGs 達成に向けた取組を実施している (SDGs 未来都市等)。

上記 2 点を実施している自治体に東京海上日動から学生を派遣し、自治体の地方創生 SDGs を応援します。

環境未来都市+包括連携

実際に、豊橋市へヒアリング

豊橋市は東京海上日動と包括連携を結んでおり、かつ SDGs 未来都市に選定されている。豊橋市役所企画部担当の方に作成した提案書の説明、意見交換を実施。

<提案タイトル>

『豊橋に“水と緑”の豊かな橋をかけよう』



学生が発信してこのような取組を行ってくれるのは嬉しい！

とコメントをいただきました。

持続可能な 社会への ポイント

保険会社ならではの人の関わりを生かし、日々生活している街のSDGs達成に向けての活動を応援し、発信する事で共感と参加の輪を広げ、新たな活動を創り出す。東京海上日動は、たくさんのお客様、社員、代理店を持っている。自治体には市民がいる。そして、それらを斬新なアイデアでつなぐ学生がいる。東京海上日動×自治体×学生団体による参加と共感のしくみである。「わたしの街の未来をつくりたい」。そんな思いに共感した人々によって、サスティナブルな社会が形成されていく。



研究員 メッセージ message

不確実、不安定、不透明な時代に突入しています。だからこそ人と人の“繋がり”は重要です。東京海上日動はステークホルダーとの“繋がり”を活かして、全社員参加型で社会課題解決のために活動しています。私たちもその“繋がり”を大切にして SDGs を身近な取組にするため自治体と学生を交えた新たな提案を考えました。この取組を広げ、サスティナブルな社会形成を促進します。

愛知工業大学 3年 山田 翔太 東海学園大学 3年 大谷 亮太
名古屋商科大学 2年 山田 優華 人間環境大学 2年 大友 仁美
(一社)SDGs コミュニティ 代表理事 新海 洋子



チーム・tokio marine

ファシリテーター

8月2日(日) 開所式

企業・ファシリテーター・研究員全員で顔合わせ。
活動のキックオフ!



8月9日(日) 基礎講座(オンライン)

環境問題やSDGsの基礎を学ぶ講座を受講!
昨年度の修了生の貴重な経験談も聴講。



8月~10月 環境課題研究

チームで企業を訪問。環境取組の現場調査、
企業担当者とのディスカッションを実施。



11月15日(日) 中間発表会

研究成果を中間発表。
成果発表会に向けて、発表内容をブラッシュアップ。



研究所の活動を
ご覧いただけます。

公式Twitter
@kagayake_aichi
研究所公式ブログ
<http://sustaina-ken.jugem.jp/>

12月13日(日)

成果発表会・修了式

持続可能な開発目標(SDGs)とは

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。愛知県は2019年7月に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの取組を積極的に推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

